

表示問題の解消を推進して コインパーキングを さらに重要なインフラへ

ゲスト

株式会社 グランドパーキングサービス 代表取締役 社長
一般社団法人 日本パーキングビジネス協会 理事

平澤 貴之

JPB理事の中では最年少だが、JPBの創立以来、理事として尽力してきたキャリアの持ち主である。これからの日本の主役となる団塊ジュニア世代の一人として、コインパーキングビジネスにどんな未来を見据えているか。大きなビジネスチャンスでもある、2020年の東京オリンピックもふまえて話を聞いた。(収録：11月14日)

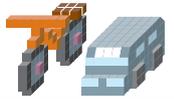


平澤 貴之

株式会社 グランドパーキングサービス 代表取締役 社長
一般社団法人 日本パーキングビジネス協会 理事

森井 博

『自転車・バイク・自動車駐車場 パーキングプレス』誌 発行人
サイカパーキング株式会社 代表取締役会長
一般社団法人 日本パーキングビジネス協会 理事長
一般社団法人 自転車駐車場工業会 理事



五輪で初めて来日する外国人に 日本発の独自ビジネス コインパーキングを訴求したい

森井 おそらく、この対談にお招きしたゲストの中では、最年少ではないでしょうか。何年にお生まれですか。

平澤 1972年、昭和47年の12月生まれで41歳になったばかりです。ただ、パーキング業界でのキャリアはほぼ13年になりました。

森井 となると、まさにこの協会の誕生と同じタイミングでコインパーキングビジネスを始められたわけですね。

平澤 はい。平成17年に独立して今の会社をつくり、来年の4月でまる8年になります。不動産の業界ということではさらに遡りまして、25歳の時に主に土地活用を行う会社に入り、社長秘書を2年務めました。その後、会社がコインパーキング事業に参入することになり、私が事業部長に抜擢されたのです。そして、出

向先の会社の倒産を契機に、さまざまなお方にご支援をいただき独立を果たしました。JPBの前々身に当たるコインパーキングビジネス協議会から、引き続いて理事を務めてくれと打診された時は、起業したばかりの自分でいいのだろうか?と辞退も考えましたが、事務局長に慰留されて今に至ります。

森井 いやいや、それはあくまで平澤さんの実力。これまでの仕事もさることながら、コインパーキング業界の次を担う世代の代表として、これからもっと汗をかいてもらわないと。ご存じのとおり、2020年には東京オリンピックもあり、日本の経済はバブル後の失われた20年を超えて、いよいよ復興のステージに入りつつある。そこで活躍するのは平澤さんの世代ですよ。2020年には48歳になるんですか?ちょうど脂が乗ってビジネスマンとして一番良い時期ではないでしょうか。

平澤 そうですね。私たちの世代は

いわゆる“団塊ジュニア”でしてバブル期は高校生、大学受験時は人数が多かったもので熾烈な受験戦争があり、就職時は氷河期に遭遇。さらに働き始めても不景気続き。私自身も独立後にリーマンショックや東日本大震災などに遭遇していて、あまり良い目を見たことがないんです(苦笑)。それだけに、7年後の東京オリンピックは、初めての大きなステップアップの機会といっていいいでしょうね。

森井 業界の次の時代を担う若手として、東京オリンピックとコインパーキングビジネスをどのように結び付けていきますか。

平澤 何より、このコインパーキングという業態は、日本特有のビジネスモデルです。したがって、オリンピックで初めて日本にやって来た海外の方は、コインパーキングを見て『何だあれは!?!』と驚くと思うんですよ。無人でありながら精算機には多くの現金が入っているわけですか



2020年の東京オリンピック・パラリンピックの競技会場が分散して設けられる都心からお台場に向けての地域

ら、外国人の目には『街の中に機械ごと現金を置いてビジネスとして成立するほど、東京の治安は良好であり、安全なのだ』と映ると思うんです。それをきっかけにしてコインパーキングというビジネスをアピールできるかもしれません。さらに言えば、自動車がどんどん増えている国、例えば東南アジア、あるいはヨーロッパの周辺地域などにコインパーキングというビジネススキームを売り出す好機であるとも考えられます。もちろん、セキュリティについては東京より厳格にする必要はあるでしょうが。

森井 なるほど。彼らにとってコインパーキングは未知の商売ですからね。シェアサイクルなどのシステムについては欧米の先進国に見倣う点がありますが、コインパーキングのビジネスについては、輸出するべきタイミングかもしれません。また、日本では現金だけでなく、カード対応の精算機もありますから、現金、カー

ドいずれも使えることが海外に対する訴求ポイントになりそうです。特に欧米は現金を持ち歩く習慣がほとんどないカード社会ですからね。

高校時代のアメリカ留学でバイタリティーを身につけた

平澤 実は、街の中に現金が置いて大丈夫…という話に関連して私は個人的な思い出があるんです。高校1年・2年とアメリカに留学しておりまして、向こうで暮らし始めた最初の頃、街を歩いていて何か違和感があったんですね。何だろう…と考えて気がついたのが、街の中に自動販売機がまったくなかったことでした。現地の友人いわく“現金を街中に置いておこなんで、犯罪者にお金を配るのも同然”なのだそうです。それを聞いて、平和な日本の良さを再発見しました(笑)。

森井 高校1年生という感受性の強い時期に留学できたのは良かったです

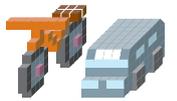
ね。実は私の妹も平澤さんと似た経歴があって、高校2年生の時に、アイオワ州の田舎町に1年間留学していたんです。帰国後、英語がものすごく流暢になっていて、理由を聞くと“日本人がまったくいなかった分、鍛えられた”とのこと。その環境もさることながら、私はやはり10代半ばという、まだ頭が柔らかいタイミングで留学したことも語学力を磨けた要因だったと思います。平澤さんはどんな収穫がありましたか。

平澤 語学力は私もかなり鍛えることができました。先に申し上げた社長秘書を務めていた時期には、海外からのお客様をお世話したこともありました。ただ、その後はあまり…。今の仕事はほとんど英語を必要としませんからね。

森井 確かにそうですね。でも、2020年に向けてJPBが、平澤さんがさっきおっしゃったようにコインパーキングのビジネスモデルを海外の事業者やメディアに向けて発信す



英語が堪能な平澤氏。東京オリンピックに向けて活躍の場が増えるかもしれない



る必要が出てくるかもしれません。その時は、是非、技術供与の通訳担当としてよろしく願いますよ。
平澤 分かりました。それと今の自分を形作る上で、留学体験にはもうひとつ大きな効果がありました。それは、自ら人脈を切り開くバイタリティーを身につけられたことです。最初はもちろん言葉もままならない状況でしたが、それでも必死にコミュニケーションを続けていくうちに1人、2人と少しずつ友人ができていった。振り返れば、あの経験は新規開拓の営業にかなり近い部分があったと思います。同時に打たれ強さも身についたと感じています。

業界とお客様との間にあるギャップを解消して表示問題を正していく

森井 さて、ここからは平澤さんのJPBでの仕事を中心にうかがってきたいと思います。今、目前にある課題としては、10月に国民生活センターからJPBに対して要望があった、コインパーキング内での表示に対する対応ですね。そこで、我々はJPB内に表示検討委員会を立ち上げ、平澤さんはそのワーキンググループのサブリーダーを務めています。改めて読者の注意喚起を促す意味も兼ねて、どのような表記が問題になっているか、例を挙げていただけますか。

平澤 日本経済新聞の記事でも取り上げられていたとおり、最大料金をうたった表記がトラブルや誤解を与える主因となっているようです。例えば「当日24時まで1日1,000円」「当

日24時間1,000円」「24時間1,000円」といった説明が混在している状況があります。場内に掲げられている説明をよく読めばご理解いただけるのですが、しかしながら、料金表示だけ読めば誤解を招くのも仕方ないことかもしれません。第一、ほとんどのお客様は入庫の際に細かい説明まできちんと読む

ことが少ないですからね。

森井 満空表示で「空」があれば即座に入るのが普通ですし、しかも精算は後ですからね。

平澤 また、同じ運営会社でも地域や土地価格の相場によって、料金体系に差があるものですが、あるユーザーからは「あっちでは3日停めて3,000円だったのに、こっちでは6,000円取られた!」というクレームもあったそうです。既にワーキンググループでは2回会合を開いていて、少しずつどのように表記をそろえていくべきか、摺り合わせを進めています。ちなみにグループのリーダーは三井のリパークさんで、私から見れば、ほとんど完璧な表示だと思うのですが、それでも十分ではないケースもあると聞いています。つまり、残念ながら私たちが考える料金・注意表示のスタンダードと、お客様が考えるスタンダードの間には、まだ開きがあるというわけです。



できるだけ誤解を招かないような看板表示は、業界の最重要課題のひとつだ(写真はイメージです)

森井 その差をどうやって縮めていくか。容易な仕事ではありませんね。
平澤 そうですね。仮にJPBが“この表記に統一します”と発信し、皆がその看板に揃えれば、トラブル、誤解は激減するのでしょうか、しかしその実現には莫大なコストがかかり、とても現実的ではありません。そこで協会としては“このような表記を推奨します”という推奨版と、同時に“このような表記は避けて下さい”という禁止事項、両方をまとめていきたいと考えています。特にトラブルの素になりがちな繰り返しの料金徴収の有無については、できるだけ具体的な表記の禁止事項を列挙する予定です。

森井 なるほど。それが当面はベストの対応になりそうですね。

平澤 なかには表記以前の問題で、長い間使っているうちに塗料がはがれてしまって、肝心の料金説明の情報が欠落しているという残念な例もあ

ります。それはメンテナンスの不行き届き、あるいは、モラルが低かったり、費用面の問題で修理していないのかもしれませんが…ともあれ、この点についても注意を促していきたいと思います。

森井 表記の問題といえば、先だって、名門といわれる国内のホテルや百貨店での偽装、誤表示が発覚しました。あのレベルに比べれば、私たちは極めて誠実な表記をしていると自負できるのですが。

平澤 本当におっしゃるとおりです。限りなく確信犯に近いあの問題に比べれば、コインパーキングの90%以上は説明をきちんと読めば、誤解を招かない表記にはなっています。そしてもうひとつ、コインパーキングのクオリティの高さの証明として、事故、事件の類が非常に少ないことが挙げられると思います。

森井 それは間違いなく誇れる部分ですね。

平澤 鉄道などに比べれば、コインパーキングにおける事故は極めて稀

です。公共交通を担う存在のなかでは、格段に高い安全性を維持していると思います。

自発的に革新を進めて 次代のコインパーキングづくりを

森井 さて、JPBの会員企業の中では最年少の平澤さんですが、協会内での仕事において年齢が若いゆえに発言権が小さい、意見が通りにくい、といったネガティブな経験は……ないですよ？

平澤 もちろんです。対談の冒頭でお話ししましたが、独立起業した時は以前の会社の肩書がなくなったわけですが、それでも協会の理事統投を依頼されたり、起業時に出資をしていただいたり…。同じ協会に属していても、一方でライバル関係だったりするにもかかわらず、皆、交流関係は深いですよ。ゴルフに食事、イベント、研修会など顔を合わせる機会が多いです。

森井 そこで分け隔てなく情報の交換、共有をしたりできるのは、JPBにおける良い慣習だと思います。

平澤 私は最年少で皆さんの弟分のような存在ですが、表示検討委員会でもそれなりに自分の意見を主張できます。以前からJPBの風通しの良さは実感していましたが、今回の国民生活センターへの対応を通して、さらにその思いを強くしました。

森井 表記については、平澤さん自身のアイデアとしてはどんな提案をされていますか。

平澤 従来なら最も重要な情報である料金の『1日1,000円』が最大で、次に『繰り返しはありません』『ご

注意ください』といった但し書きが小さく付くパターンでした。すべての人が誤解せず、できるだけ素早く理解していただくためには、極端なプランですが、『1日1,000円』『繰り返しはありません』『ご注意ください』、すべてを同じ大きさの文字にそろえることも検討に値するのでは、といった意見を申し上げました。**森井** 人間は錯覚をする動物ですからね。必要な情報をどうやって人間の視覚にストレートに訴えるか。日本語の文法を気にすることも必要ですが、同時に、色やデザインなどビジュアルについても吟味しなければなりません。

平澤 しかも会長が常日頃からおっしゃっている“コインパーキングは美しくあるべき”の理念にも沿わなければいけませんからね。ハードルが高い仕事ですが、将来の業界の信用を左右するだけに、それだけやりがいもあります。東京オリンピックも控えていますから、遅くともそれまでには表示の混在を極力少なくして、誤解、トラブルのないコインパーキングを増やしたいと思います。

森井 そうか、オリンピックといえば、コインパーキングを利用する人の中には外国人の割合も増える可能性がありますね。となれば英語表記を加えることも検討するべきでは？

平澤 そうですね。駅舎や電車内、バスなどでは、既に英語や中国語、韓国語表記などを併記するケースが増えていますが、コインパーキングがどこまで対応できるか…私がまず導入を本格化すべきだと思っているのが電光掲示板です。デジタルなら、料金改定を行っても入力する情報を





変更するだけですぐに対応できますし、見た目もスマート。アナログだと改定のたびに貼り換えたりして読みづらいですし、何より美しくないですよ。また、英語など外国語併記についてもフレキシブルに対応できそうです。

森井 そのとおりですね。そして電光掲示なら、広告を入れやすくなるメリットもある。新幹線車両

内のニュース掲示と同じです。こうした革新は、なかなか大手事業者が実行に移しづらいものなので、私たちのような中小の業者がどんどん現場に導入していくべきだと思います。

平澤 そうですね。フットワークの良い我々が先鞭をつけられれば、表示の問題解消のロードマップも具体化できるはずです。

森井 既に導入事例を拡大しているロックレス駐車場はその好例ですね。最初は、精算せずに逃げられてしまうかもと危ぶんでいましたが、フタを開けてみればそれは杞憂に終わった。乗り逃げはわずか0.1%程度しか発生しませんでした。ロック板をなくすことで利用者が駐車し易くなり、機械の不具合自体がなくなり、設置・解体工事が容易になり、ランニングコストと環境負荷の低下、駐車場の美観向上と良い事尽くめになったわけです。ロックレスと同様、電光掲示の表示普及にも取り組んで



平澤氏が経営する株式会社グランドパーキングサービス運営の駐車場

いきたいですね。

平澤 そうですね。オリンピックまでの7年間は長いようですが、おそらくあっという間でしょう。肅々と業務を片付けなければなりません。

森井 平澤さんには最後に改めてエールを送りたいと思います。バブル、リーマンショックや震災を経て、復興を遂げつつある日本には、ようやくビジネスを拡大する機会が訪れていると思います。そこで活躍するのは、間違いなく平澤さんの世代です。歴史を遡ってみれば、1964年の最初の東京オリンピックと相前後して、それまでビジネスの第一線で活躍してきた人間は次の世代に道を委譲していました。そして2020年の第二回目の東京オリンピックを迎えるにあたって、今度は私たちの世代が勇退するべき時期が近づいていますから。さしあたっての大きな課題である表示検討委員会での活躍、大いに期待しています。

平澤 ありがとうございます。でも、私としてはまだまだ森井会長にも頑張ってもらえれば心強いですよ。

森井 ははは。分かりました。しばらくは邪魔にならない程度に協働を続けていきましょうか。本日はお忙しいところ、誠にありがとうございました。

PP

